

夢のつばさ

令和2年度
学校運営協議会
第3回「函南小学校支援会議」
を終えて

令和3年2月号 No. 5
文責 渡邊

第3回「函南小学校支援会議」が、令和3年2月16日に函南小学校図書室で開催されました。年間3回を予定しています本会議は、今回をもって令和2年度の会議は終了となります。

委員の皆様方には、子供たちの学習の様子を参観していただいた後、協議会を行いました。

校長からは、次年度の学校運営の方向性について説明しました。学校評価に関するデータを様々な視点から分析し、考察していることを説明しました。

この協議会では、校長が作成する学校運営の基本方針を承認していただくことがねらいの1つとしてあります。令和3年度の学校運営の方向性をどのような作業を通して進めているのかの話を行いました。

次に、右の写真にありますように、令和2年度(第35回)はごろも教育研究奨励賞「学校賞」を受賞した報告をいたしました。今年度は、学校賞の応募が25件あり、その内13件が受賞いたしました。(高等学校3件、特別支援学校1件、幼稚園2件、小学校4件(東部地区1【本校】、静岡市2、浜松市1)、中学校3件(東部地区2、静岡市1))

本校は、『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善をカリキュラム・マネジメントにつなぎ、資質・能力を育成する学校運営を目指して」をテーマに、全職員で取り組んだ教育実践が認められました。

本校は、子供たちの資質・能力の育成に日々、尽力しています。そうした努力と成果が認められたことは本当に嬉しいことです。また、今回の実践報告では、コミュニティスクールの実践についても触れました。これからの学校教育は、学校と保護者、そして地域の方々が協力し、子供たちの資質・能力を育成していくことが大切となります。これからも、子供たちの健やかな成長のために、職員一同よりよい教育活動を目指して取り組んでいきたいと考えます。保護者や地域の方々におかれましてもご理解、ご協力をいただきありがとうございます。どうかこれからもご支援をよろしくお願い申し上げます。(職員室前の廊下の掲示板に、今回の教育実践報告書が掲示してありますので是非ご覧いただきたく思います)



【職員室前の掲示】



【本校のコミュニティスクール】

教務主任からは、学校評価について説明しました。「挨拶がよくなっている」「学校が楽しいという子供が多い」等の報告がありました。特に、学校と家庭が連携し取り組んでいくことで「挨拶」の習慣は定着するものと思われま

す。2月に入り、児童会役員の子供たちが「あいさつ運動」を校門前で実施しています。「新型コロナウイルス感染症の影響で元気がなくなってきた学校を、私たちの元気のよい挨拶でパワーを取り戻したい」という思いから活動がスタートしました。子供たちの自主的な活動はとても喜ばしいことです。自分たちで考え行動する姿に子供たちの大きな成長を感じます。児童会役員の働きかけは、全校の児童に広がってきているように思われます。今後も、学校と家庭、そして、地域とで連携し取り組んでいきたいと思



【挨拶運動に取り組む子供】

最後に、会議の中で発言された委員の皆さんの意見の一部を紹介いたします。

◆この会合の1回目は、6月半ばでした。その時の1年生は、まだ落ち着きがなく、年長の続きのような子供たちで大丈夫なのかと心配した覚えがあります。同じ1年生を今日見ましたが、まだまだ自分のことだけで精一杯なわけですが、みんなの前に出て、しっかり発表している姿を見ると、もの凄い成長を感じました。1年生は、登校の様子もよく見させてもらっています。遅い時間に歩いていた子供が、10分くらい早く歩いている姿を見られるようになったり、これまで挨拶をしても反応がなかった子供がニコッと微笑みながら挨拶ができるようになったりして、こんなところでも成長を感じている毎日です。

◆どの学年でも発表、まとめ方、そして作品を見ていると1年間にこんなことができるようになったんだという子供の成長がよくわかりました。4年生の授業で、子供の発表に心を打たれ、涙が出そうになったりしました。また、6年生の作品を見て、絵や言葉のたくましさを感じるとともに、12歳の子供たちがこんなことを考えているんだと感心したりしました。

◆授業を見ていて、目が合うと会釈をしたり、挨拶をしてくれたり、子供の明るさと礼儀正しさがあふれる学校であると感心しました。

◆毎回、学校を訪れる時に子供の作品を楽しみにしています。それは、子供の作品には、上手いとかへたではなく、子供そのものが作品に表れているからです。1年生では立体的なものがかけていました。2年生の版画も面白かったです。表現の一つ一つに目の付け所の良さとか、先生方の創造力の引き出し方のうまさを感じました。

◆防災キャンプの話が出ていましたがとても良いことだと思います。特に静岡県は、防災を学ぶ必要があると思います。防災を学ぶ時は、理解して、納得して、その後自分がどう行動すべきか考えていかなくてはなりません。これは、大人でも難しいことですが、この防災キャンプをきっかけにして、このような力を伸ばしていくことは本当に大切だと思います。これを作り上げた先生方、そして、これに協力して下さった地域の方々には、本当に頭の下がる思いがしました。

◆この学校は、「おやじの会」を含めてコミュニティーの体制が整っていると感じます。このことを地域、保護者でもっと共有していきたいです。そして、子供たちが、「私たちはこんなに支えられているんだ」と感じられるようになればよいと思います。

◆今回、「ランプシェードプロジェクト」に取り組んできたが、コロナの状況もあり、進めていく上で悩むこと、上手くいかないことが多くありました。その時に立ち止まって考えたことは、そもそもこの活動を何のためにやっているのかでした。この活動をする事によって、「子供たちが笑顔になって欲しい」、「先生たちが元気になってもらいたい」ということを確認しました。思いを込めて取り組む活動は、相手に必ず伝わっていくことがある。そのことを大切にして取り組んでいきたいと思っています。

◆「ランプシェードプロジェクト」では、子供のためにと仁田区の道具を快く貸し出していただきました。地域の皆さんの温かさを強く感じるとともに、みんなで健全な子供を育てていきたいという風土をありがたく思います。

◆情報化の流れが急速に進んでおり、私たち大人でも、その時代の変化に直面しています。遠くまで行かなくても、リモート等によりいろいろな会合に出られるメリットや実際にその場面に行かないと伝わらない雰囲気やわからないデメリットもあります。仕事等でも、ネット上に情報を載せるように求められており、なるべく正確な情報を出すことに努めています。社会全体が大きな岐路に立たされていると感じます。

◆情報量がとにかく多い時代になりました。そうした社会に生きる子供たちに必要な力とは何だろうか。多くの情報の中から、真実をつかむためには読解力が必要です。情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に読み解いていく力が必要だと思います。それにはこれまで進めてきた読書活動を大切にし、読解力を育てて行く中、批判的思考力の育成に努めていくことが必要だと思います。

※1年間の子供の成長の姿から多くの意見をいただきました。ありがとうございました。